

時間外労働削減のための現場での実践事例 募集

(一社)全国土木施工管理技士会連合会では、他の施工管理技士の参考となるような、時間外労働削減のための現場での実践事例を募集します。

応募者は、受理されればC P D Sが10ユニット付与されます。

応募要項

1. 対象者

土木施工管理技士1級または2級〔技士補を含む〕、もしくは技術士(建設部門)で、執筆者1名の応募といたします。

技士会会員、無所属の制限はありません。

2. 対象工事と内容

対象とする現場は、できるだけ新しいものがありますが、以前のもので、現在でも役立つと思われるものであれば構いません。なお、工事規模の大小・工種の制限はありません。

非公開のものが前提で、過去に他団体等に公表したものは応募できませんが、今回の募集目的に合うように加工したもの、または、定量的評価がなされているものであれば、その旨記載すれば応募可能です。ただし、C P D Sユニットは半分(5)となります。

(対象内容)

施工効率や省人化の向上

仮設や施工計画(段取り含む)での工夫

事務処理(書類作成等)の効率化(会社としての取り組みも含む) ※施工技術と関係なくても可
等

新技術の活用やICT機器の活用(DX)だけでなく、これまでの経験を生かした現場での取り組みも対象となります。

3. 【重要】原稿形式

(1) 内容：執筆者自身が取り組んだものあるいは会社全体で取り組んだ事例で、他の施工管理技士に参考となるもの。

(2) 構成：原稿の構成は以下の①～⑤とすること

①工事内容：以下がメインなので簡潔に

②取り組みの内容：機器、ソフト等については商品名の記載は問題ありませんが、宣伝的な表現はこちらで削除する場合があります。

NETIS登録があるものはその旨記載してください。

苦勞した点があれば併せて記載してください。

③削減効果：取り組みの効果を分かり易く。できれば定量的に(定性的でも可)

④評価：なくても可 具体的数字ではなく、以下の例の様なものでも可(複数でも)

「効果はあるが、習熟が難しく、一般的ではない」、「導入が容易、未経験者でもすぐに対応できる」、「低価格で有効」、「費用は掛かるが工期が短縮できトータルコストは安くなる(または同じくらい)」、「費用は掛かるが省力化、作業時間の削減に役立つ」、等

※③と④は併せて記述しても可

⑤今後の課題・改善点

(3) 様式：Word 形式（ワード）

必ず、当会ホームページから原稿ひな型をダウンロードして、これを使用してください。
原稿の容量は 15 MB 以内といたします。（原稿ひな型を使用されない場合は不受理となります）
1,600 文字以上（必須）（白黒印刷して鮮明に映る図（写真）・表を含む）。
A4 用紙 2～4 枚におさめること。
但し、写真・図・表の分量は各頁の半分以下とすること。**1,600 文字未満は不受理になります。**
ひな型末尾の分類にご協力ください。
※その他細かい規定があります。チェックシートで最終確認してから提出してください。

4. 応募方法

- ①方 法：当会ホームページにおいて、インターネットからご応募ください。**※応募は 1 人 1 件まで**
※推奨ブラウザ Microsoft Edge または Google Chrome
- ②締 切：**2025 年 12 月 31 日（水）**※**継続して募集することもあります。**
- ③料 金：技士会会員は無料、無所属は 2,200 円(税込) + 学習履歴登録手数料 550 円(税込)
- ④受 理：内容が一定水準以上で原稿形式が応募要項を満たしているものだけを受理し、
執筆者に **10 ユニット**を付与いたします。不受理の原稿には CPDS ユニットは付与されません。
受理の判定結果についてはメールでご連絡します。（募集期間終了後、2025 年 2 月中旬頃）

5. 著作権・発表について

応募原稿の著作権は、（一社）全国土木施工管理技士会連合会に帰属するものといたします。
他団体等で公表済みで未加工のものは、既公表の団体等での権利を優先します。
応募されたものは JCM 図書や JCM 機関誌、HP 等で公開いたします。また、発注者に提供する場合は商品名等を削除することもあります。

6. 技術論文・技術報告への応募について

同一内容（類似を含む）のものを、別途募集している技術論文・技術報告として応募することはできませんが、重複は認められません。どちらかを、選択してください。

技術論文・技術報告の応募要件を満たすのであれば、入賞した場合、CPDS の加算や賞金もありますのでこちらでの応募をお奨めします。また、共同執筆者の追加もできます。

技術論文・技術報告として提出する場合は、そちらの募集要項を確認し、技術論文・技術報告用の原稿ひな型を使用してください。構成や原稿の量及び締切日に差異がありますのでご注意ください。

ただ、過去に他団体等に公表したものや今回のために加工したものは定量的評価がなされていても技術論文・技術報告には応募できませんのでご注意ください。